

沿 革

(1) 大町市消防団

- 昭和 23 年 3 月 自治体消防として大町、平村、常盤村、社村それぞれ消防団が発足する。
- 昭和 29 年 7 月 大町、平、常盤、社の一町三ヶ村が合併したことに伴い大町市消防団が定数 1,270 名で発足する。
- 昭和 30 年 2 月 日本消防協会優良消防団表彰旗を受賞する。
- 昭和 40 年 3 月 消防庁長官表彰（竿頭綬）を受賞する。
- 昭和 41 年 9 月 第 13 回県下消防団長大会が当市において開催される。
- 昭和 43 年 4 月 常備消防の充実に伴い定数を大幅に削減し、780 名となる。
- 昭和 48 年 11 月 当市消防団長が県消防協会長に就任する。
- 昭和 52 年 1 月 市民初参加の「消防出初式」を実施する。
- 昭和 55 年 4 月 定数を 626 名とする。
- 昭和 58 年 3 月 消防庁長官表彰旗を受賞する。
- 平成 5 年 4 月 消防団活性化対策検討委員会を設置する。
- 11 月 消防団活性化対策検討委員会答申書を作成し、団長に提出する。
- 平成 6 年 4 月 消防団活性化委員会を設置する。
- 平成 7 年 4 月 消防団活性化対策事業により、女性消防団員が入団する。
- 平成 8 年 4 月 長野県市町村災害時相互応援協定を締結する。
- 梅雨前線豪雨災害に対する水防功績により全国水防管理団体連合会会長表彰を受賞する。
- 平成 9 年 4 月 蒲原沢土石流災害の功績により消防庁長官感謝状及び日本消防協会会長表彰を受賞する。
- 平成 18 年 1 月 大町市、八坂村、美麻村が合併したことに伴い、定数が 835 名となる。
- 平成 19 年 4 月 平成 18 年 7 月梅雨前線豪雨災害に対する水防功績により全国水防管理団体連合会会長表彰を受賞する。
- 平成 26 年 4 月 消防団員の減少に伴い定数を削減し、769 名となる。
- 平成 26 年 6 月 当市消防団長が県消防協会長に就任する。
- 平成 26 年 12 月 市役所消防応援隊結成、消防団支援を開始する。
- 平成 28 年 4 月 喇叭部が組織再編により本部分団付となる。
- 平成 30 年 5 月 県下第 95 回都市消防長・消防団長並びに事務主任者会議が当市において開催される。
- 平成 30 年 6 月 消防団員定年制の撤廃及び機能別団員制が導入される。
- 平成 31 年 3 月 日本消防協会優良消防団表彰旗を受賞する。
- 消防庁長官表彰（竿頭綬）を受賞する。

- 令和 2 年 6 月 市ポンプ操法・ラッパ吹奏大会が新型コロナウイルス感染防止のため中止となる。
- 令和 3 年 6 月 市ポンプ操法・ラッパ吹奏大会が新型コロナウイルス感染防止のため中止となる。
- 令和 4 年 1 月 消防出初式が新型コロナウイルス感染防止のため中止となる。
- 令和 5 年 4 月 消防団員の減少に伴い組織を再編し 7 分団 14 部とする。また、団員の区分を基本団員と機能別団員と定め、各区分における活動年齢及び定数を 49 才未満・456 名、50 才以上・100 名とする。併せて、年額報酬・出勤報酬を増額改定し個人支給に変更する。

組織・機構

